

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）乙第 1792 号	氏名	森内 博紀
論文審査担当者		主査教授	中尾 一彦
		副査教授	永安 武
		副査教授	下川 功
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 肝移植に於ける免疫抑制剤FK506の作用をアポトーシスおよびアポトーシス制御の観点から明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価 ラット肝臓アロ移植モデル（FK506 投与群ならびに非投与群）を用い、移植後の肝浸潤リンパ球、肝細胞のアポトーシスを TUNEL 法で比較検討し、Fas/FasL、Bcl - 2/BaX の発現変化をウエスタンブロットならびに免疫組織学的に検討したもので、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 FK506 投与群では非投与群に比べ肝細胞のアポトーシスは抑制され、逆に浸潤リンパ球のアポトーシスが誘導された。FK506 投与群では非投与群に比べ肝細胞における Fas の発現が抑制され、中心静脈周囲肝細胞を中心に Bcl - 2 の発現亢進を認めた。本研究により、アポトーシス制御という FK506 の新たな免疫抑制機序が明らかとなり、今後の展開が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は免疫抑制剤FK506の多彩な作用の解明に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			